

信用金庫の投信窓販 ～実績の決定要因についての分析～

森 祐司（九州共立大学）

信用金庫は従来からの主要業務である貸出収益の状況は、高齢化・低成長を背景とした低迷が続いている。このような収益環境が難しい中で、非資金収入の拡大、とりわけ投資信託の窓口販売を拡大する信用金庫も多くなってきた。国債投資を主体とする証券投資は従来から行われてきたが、低金利下の状況ではさらに拡大することは難しく、今後の拡大も容易ではないことから、投信窓販に期待する信用金庫も少なくはなかった。事実、メガバンクや地方銀行等が投信窓販を拡大させていく中で、信用金庫業界全体でも増加傾向がみられる。しかし、すべての信用金庫は必ずしも同一の行動をしているわけではなく、信用金庫により投信ビジネスへの参入をまだしていなかったり、逆に多くの経営資源を割いて推進したりするケースも見られ、その取組方や実績にバラツキも見られるようになってきている。

本研究では、このように、信用金庫の投信窓販について、その実績に差異をもたらす要因を、信用金庫の財務状況等の信用金庫の内的な要因や、営業地盤や競争環境などの外的要因から分析することを目的とする。

分析結果は、規模を示す総資産額・店舗数・職員数が大きいほど、投信窓販の実施可能性は高く、投信窓販の実績も高いことがわかった。ただし、投信窓販の実施の有無に関しては、預貸率は有意でなかった。しかし、実施する信用金庫では、預貸率は正で有意で多角化志向があることが窺われた。

競争環境については競争度（ハーフィンダール指数）が有意であり、競争度が高い（競争環境が激しい）ほど、投信窓販実施の可能性は高く、投信残高が大きいことが分かった。

また、都銀シェアが高い県に立地する信用金庫は実施可能性は低く、実施する信用金庫でも、投信実績は小さいことがわかった。これは、従来から預金や貸出での顧客であっても、投信販売については都銀に顧客を奪われている可能性を示唆する。地銀との競合関係では、地銀シェアの高い道県に立地する信用金庫は、預金利子率、総資産額、預貸率により強く反応する形で、投信窓販の実績に影響していることが窺われた。

以上の結果、信用金庫の規模が実績に影響するほか、経営状況や競争環境が、投信窓販ビジネスへの参入や、実績に影響を与えることが分かった。